つくしの家だより

No. 102　2019．6．1

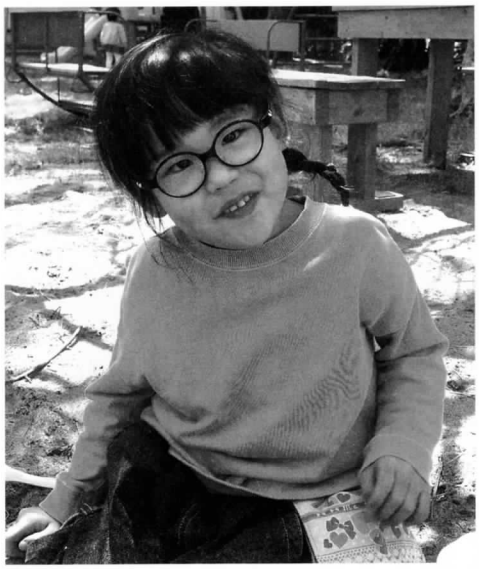
〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240－1
（児童発達支援・放課後等デイサービス）
つくしの家
（生活介護事業所）
つくしホーム
☎ 0548－52－2225
事務局　52－0825
ＦＡＸ　52－1156
e-mail:tsukushihome@aioros.ocn.ne.jp

HP アドレス　http://ichiyoukai.sakura.ne.jp/

こいのぼり…

栗林　均

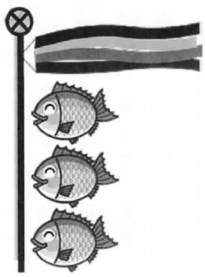
梅雨入り前のさわやかな陽ざしを浴び、木々の枝の先々ではやわらかな色の葉が気持ちよさそうに風に揺れています。午前の活動の前にひとまわり、お散歩から帰ってきた子ども達。今日はどこまで行って来たのでしょうか？「お散歩輪っか」を持ったり、先生と手をつないだり…、表の道からにぎやかな声が聞こえてきました。



数年前の新聞に、あるお母さんが投稿された『三匹の鯛』という文章がありました。子ども達との日々の中で、心がふっとあたたかくなるような文章でした。紹介させていただきます。『育児の悩みは尽きない。なぜかすぐにイライラして怒ってしまう。子供のことが理解できず、子供との間に距離を感じる時期があった。思い悩んで保育園の園長先生に相談すると「子供の心の中には、『褒められ鯛（タイ）』『認められ鯛』『お役にたち鯛』という三匹の鯛が住んでいるの。この三匹が心の中で元気に泳げば泳ぐほど、自信とやる気の芽が良い方へ伸びるのよ。だから悩んだ時こそ、たくさん褒めてあげて」と言われた。振り返ってみると、怒ってばかりで褒めることが少なかった。子供は、ちょっとしたことでも褒められるとうれしそうな顔をする。悩みを一つ乗り越えると、また新たな悩みがやってくるが、褒めて育てるを実践し始めてから子供との距離が縮まってきた。褒められてうれしいのは子供だけではない。先日、夫から「子供たち、寝る前に自分から歯磨きして、お布団に入って寝るようになった。いつの間にかできるようになって、おかげですくすく育っているね」と一言。家事をやって、育児をして、一日が終わると疲れ果てている私にとって、何よりの自信とやる気のもとになった。大人だって褒められるとうれしい。褒められるために行動するわけではないが、大人になっても心の中に三匹の鯛が今でも住んでいるような気がする。もうすぐ育児休暇が終わり、仕事に復帰する。私の心の中に、自分の会社を通して世の中の「お役にたち鯛」がゆっくりと動き出してきた。』…、こんな文章でした。

新しいお友達を迎え、在園のお友達も担当の先生が変わったり…と、ちょっぴりそわそわした一年のスタートでした。二ヶ月が経ち、お迎えの時間にロッカーの前では、お母さんやおうちの方たちに、子ども達のちっちゃなできたことを楽しそうに伝え合っている職員の姿がありました。「朝の会の間、イスに座っていられたんですよ」「お弁当、食べちゃいました」「トイレで初めておしっこが出たんですよ」…、にぎやかな一日の終わりです。

青空の下、こいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。子ども達の心の中でも、きっとこんなふうに三匹の鯛が元気に泳ぎますように…。みんなでそんな日々を送っていけたらいいなって思いました。



（一羊会理事長・つくしの家園長）

～つくしホームの もうひとつの夏～

増田　隆

柔らかなクルミの葉の隙間から、強い日差しが中庭に注がれています。つくしの家のこどもたちが遊具やお砂場で遊び、ボール運動をしているつくしホームの利用者さんや職員の歓声が響きます。

つくしホームは、今年度二十五名の利用者さんでスタートしました。去年の十一月までは二十六名でしたが、紅林昌子さんが十二月に菊川市の障害者支援施設「清松園」さんに入所されました。昌子さんは、つくしの家が開設された年である昭和四十四年の十月につくしの家に入園し、それも含めて約五十年通い続けてくれました。つくしの家では、舌でレバーを動かす電動車いすに乗って、器用に運転していたこともありました。その後、つくし作業所を経てつくしホームになった時には、自由時間に表を見ながらひたむきに計算問題を解いていました。楽器演奏では口に棒をくわえ、わずかに動く力でツリーチャイム（糸でつられた長さの異なる棒が並び、それらをなでるように演奏する楽器）を奏で、息の出し方を自分で考えながらリコーダー（縦笛）やオカリナも演奏していました。呼吸のタイミングが難しく、とても体力を使いますが、決して弱音を吐かず、汗を流しながらも根気よく納得のゆくまで続けました。楽器演奏だけでなく歌も大好きで、森昌子さんの「せんせい」や、山口百恵さんの「いい日旅立ち」が十八番でした。まだ古い建物で過ごしていた当時は、どんなに暑くても寒くても週に二回は散歩に出かけていました。そのせいか、それまで昌子さんは風邪をひきやすく、合併症もたびたび起こすこともありましたが、毎回外に出ることが健康増進につながったのか、その頃から風邪さえひく事もなくなり、体調がとても安定してきました。趣味も多く、自由時間には大好きな花の図鑑や料理の本を読んでいます。普段口数は少なく、穏やかに過ごすことが多いのですが、自分の意見を主張すべき時には、時間をかけて考えながらきちんと自分の思いをみんなに伝えてくる芯の強さも持っています。また、利用者さんや職員にもよく話しかけてくれて、家族の事も気遣ってくれる、とても優しい心の持ち主です。

そして、昌子さんご本人だけでなく、お父さんもつくしの家在園時からつくしのために力を尽くしてくれました。法人の理事も長く務めてくださり、つくしの家後援会の会長も務めて下さいました。当事者の保護者の方々で組織されている「手をつなぐ育成会」の会長職にも長く在職されました。お母さんもいろんな行事や催しに協力してくれ、毎年恒例のお餅つき会では、材料や道具の手配はもちろん、毎回準備や片付けまでしてくれていました。つくしの家入園児から一緒だった紀代美さんや照美さん、充男さん等は家族同然の存在であり、きっとさみしく感じていることでしょう。でも、新しい人生の始まりを心から祝い、昌子さんと過ごせたことを幸せに感じます。そして、つくしをはじめ法人や地域のためにご尽力いただいたお父さん、お母さんにも心から感謝いたします。

もう少しで本格的な夏がやってきます。つくしホームでは牧之原市より委託を受け、障害児者日中一時支援事業として学校が夏休みに入る時期に「夏季学童クラブ」も実施しています。当初はつくしホームで実施していましたが、今はつくし東館の「学習室」を使い、専任の職員と施設長で市内の特別支援学校・支援学級に通う小学生から高校生までの児童・生徒を受け入れています。事業の委託を受けたのは平成十八年度、ちょうど今在園している美咲さんが小学校一年生の時からですから、すでに十四年が過ぎようとしています。一年ぶりに出会う姿には、表情やしぐさの明らかな違いを感じ、改めて児童期の成長ぶりに驚かされます。低学年の子供達は遊びの質が変わり、自我が芽生え、思いをたくさん伝えられるようになる子もいます。中学部や高等部の生徒さん達は、作業学習や様々な場所での実習を経験しているせいか、気持ちの切り替えや基本的な生活習慣が身につき、我慢することや多少の環境変化にもあまり動じないようになったなと思わせる面が多々あります。ひとりひとりの心を確かめるように関わり、変わらぬ笑顔の中に今まで知らなかった、気付かなかった面を知り、心地よい緊張感を感じながら、色んな事を学ばせてもらっています。

これまでの間にいろんな思い出がありますが、いくつかの出来事をご紹介したいと思います。

今年高等部を卒業したB子さんは、環境や言葉に対してとても敏感でした。利用を始めた頃は安心できる場所や人が限られ、いつも緊張した表情でした。玄関のごくわずかのスペースで、決まった遊びやかかわりからなかなか離れられず、私達もなかなか心のドアを見つけられずにいました。つくしホームの利用者さんの程よい距離感と和やかな空気に少しだけ気持ちが緩んだのか、二日目からようやくホールに入ってくれ、帰り際は「帰りたくない」と言ってくれました。翌年まで特定の人と場所でしか食べられなかった食事も、三年目からは全て食べてくれるようになり、夏祭りでは少しだけポップコーンを口に運び、笑顔で「魚釣りゲーム」に興じていました。それ以降は毎年当たり前のように食べている姿を見せてくれました。

A君は細かな数字や記号をたくさん覚えていて、粘土で忠実に再現してくれ、野菜等の食材や、いろんな料理を知っていました。時々スキンシップを求めに来る時の満面の笑顔が印象的です。一日、二日目が過ぎ、三日目になりました。両日ともお弁当に手を付けなかったので、その日はお母さんがパンを持たせてくれました。まだ昼食までには間がある頃、A君はパンを食べたくなったようでしたが、「もう少し待ってね」と伝えました。その日はお昼に早退する子がいましたので、「今日は早めに十一時半にご飯にしよう」とA君や他の子に言いました。そんな事を繰り返しているうち、A君は不安になってしまったのか、大きな声が出て、動きも止まらなくなってゆきました。トイレに行きたい時にそのようなことがある、と聞いていたので、トイレにも行きましたが、激しく拒否します。職員が色々な方法で接しましたが、どうにもおさまりません。

私はA君を誰もいない静かな二階に誘い、二人きりで過ごすことにしました。無言でただ一緒に居るだけの中、汗だくになりながら泣き声をあげるA君でしたが二十分～三十分が過ぎた頃、私に向かって「十一時半に（食事に）します」と言った後、おしっこが出てしまいました。その後は落ち着きを取り戻し、手をつないで食事に向かいました。それから帰宅するまでは終始穏やかでした。何が原因でどんなきっかけだったのかは定かではありませんが、「トイレ」が大きな要因だったように思われます。あの時、私は一か所のトイレしか行きませんでした。他にもいくつかトイレがあったのに、そこには誘いませんでした。他にも、外に出てみる、身体を拭いてあげる…考えればいろいろな気分転換や接し方があります。A君に申し訳ない気持ちが溢れ、同時に自分のふがいなさを悔みました。学童クラブは療育や訓練の場ではありませんが、いつもの家、そして学校ではないこの場所に居て、いつもと違うトイレに行くA君のストレスを、もっと分かってあげなければいけなかったのです。言いたくてもうまく言えない、伝えられないA君と居ながら、その気持ちを推し量ってあげるべきでした。そして、その時、彼が困った子（人）ではなく、困っているのだということも。

慣れ親しんだ環境から初めての場所で一日を過ごすのですから、不安や緊張があるのは当然です。しかし、年々豊かになる表情や屈託のない笑顔がふえてゆく様を見せてもらいながら、本人の可能性と、これまで、そして現在その子にかかわった様々な人たちや機関の支えや励ましが、いかに強く温かであったかを感じます。この学童クラブは療育や指導の場ではなく、限られた期間ではありますが、この夏しかない大切な時間を、本人、ご家族が安心して利用できる場所を提供し、卒業後の進路のひとつとしてつくしホームを考えていただければ嬉しいなと思います。

（つくしホーム施設長）

『一生の思い出』

長野由美

つくしの家を卒園して早いもので五年が過ぎ、今は吉田特別支援学校小学部六年生になりました。息子の名前は、力丸（りきまる）です。名前のイメージは『気は優しくて力持ち』ものすごい頑丈な体で走り回り、突進、体当たりしてきた入園式では、園長先生にウレタンの積み木を手渡すと「ありがとう」と優しく受け取ってくれた風景が目に焼きつき忘れられません。卒園した今では、少々チキンハートな部分はあるもののイメージどおりの優しくていろんなことに力になってくれる子に成長しました。

そんなある日、今年三月にびっくり仰天するできごとが…。何と、力丸の描いたオリンピック・パラリンピックのポスターが全国で銀賞に選ばれてしまったのです。学校から帰って来た本人からの報告は、もったいぶってじらし「家についてから話す」と。そして発表し、それを聞いた私達親子の喜びようといったら、飛びはねたり抱きしめたり、それはそれはすごいものでした。東京台場で行われた表彰式に家族そろって招待していただき「森さんが表彰してくれるんだよ」「森さんって？」「ん～、安倍さんの友達だよ」「大統領？」「総理大臣だよ」…、そんな会話をしながら道中ドキドキしたようですが、無事に表彰式も終わり、とても幸せなひととき。一生の思い出となりました。

小さな頃から絵を描くのが好きで、可愛らしいオリジナルキャラクターや自分の好きなロボットをよく描いていました。大人になっても楽しめる趣味として画材選びや初歩的な基本など身についたら人生が楽しめるのではないかと思い、絵画教室に通っています。奥深い絵の世界に足を踏み入れると個性的な素晴らしい作品に驚かされ、私達親子の脳にはいつも刺激が走ります。強敵なゲームやユーチューブを楽しむ時間ももちろんありますが（笑）…、お手伝いや趣味の時間もこれからも大切にしていきたいです。

（つくしの家卒園児保護者）

生き抜く力

増田美登里

時代は平成から令和に移りました。達仁（たつひと）は平成元年生まれなので、まさしく平成のまん中をかけぬけてきました。平成元年三月誕生の日、桜の花が咲き始めたというのにその日は、あいにく朝からの春雷で次のでき事を予告するかのようでもあった。

生まれた子供は、重度の仮死状態で生死をさ迷ったが、本人の強い意志の元に誕生する事ができた。とは言っても重度の低酸素脳症を伴い、体の多くの場所に神経のマヒがあり、食事、言語、歩行と生きていく上で重要な部分が正常に機能しないだろう、という医師からの冷酷な説明だった。その状況を聞いていた私は、いやに冷静だった。それは自分の頭の中に三つの考えがあったからだ。

一つ目は、実際に誕生して大変だけれど一生懸命に生きている達仁の存在。二つ目は、生まれてきてからずっと明るく成長を楽しみにしてくれている家族。そして私が小さい時から祖父に言われ続けてきた言葉。「人間に生まれたからには、何でもやってやれない事はない。一生懸命、事に当たれば、くじけそうな時はきっと誰かが助けてくれる。」『自分の力でこの子をどうにか治していこう。』そう決心してからは、どんな事にも挑戦した。その頃、ちょうどTVで「奇跡を呼ぶ住職」という番組を観て、「これだ。」と思い、そのお札を手に入れ、達仁の寝ているおでこに貼った翌朝、本人が、いつもと違って大きな目を見開いてむくっと起き上がり、「いよいよ奇跡か。」と思った瞬間、その顔に貼ってあったお札を取り、またごろんと、転んでしまった。ただお札がうっとおしく、起き上がっただけのその話は、今では笑い話だが…。

その夜、あきらめかけていた五歳の頃、「聖陵リハビリセンター」に行ってみたら、という話をいただき、そこで「大丈夫ですよ。リハビリをやっていけば、食事、歩行、発声もできるようになりますよ。」と、初めてうれしい言葉をいただき、特別支援学校三年で歩行ができるようになり、少しずつではあるけれど成長していく事ができた。平成の十二年間は、学校の先生方、その後から現在に至るまでは、つくしホームの先生方に明るく、安心して生活できる居場所を与えていただいた。本当に感謝だ。今でも骨が弱いので不安はいっぱいあるし大変さも多い。これからもホームの先生方に助けていただき、明るい父兄の皆さんを見習ってこの令和の年も元気に生き抜いていけるよう親子で頑張りたい。

（つくしホーム保護者）

ご報告

この五月一日「平成」から「令和」へと新たな時代を迎えました。菅官房長官が掲げた「令和」の文字がテレビの画面に映し出されるのを見ながら、これまで「昭和」から「平成」へと私達が歩んで来た道が思い出されました。

一羊会では現在、牧之原市の相良地区で福祉施設を運営しています。法人の設立は昭和四十七年三月三十一日ですが、その前から「相良保育園」を運営していました。戦後の復興に大人達が取り組む中、日中の子ども達を守りたい、と日本キリスト教団相良教会会員により昭和二十三年一月に教会の牧師館を使って保育を始めました。十二月からは保育所として県より認可を受けました。

「つくしの家」ができる前、相良保育園に知的なハンディを持った女の子がいました。その子は園の門から飛び出してしまったり、近くの家に上り込んでしまったり、みんなと一緒に遊んだり活動することがなかなかできませんでした。たくさんの子ども達と一緒の保育園という場所は、きっとこの子にとって大変なことなんだろう、この子達が安心して過ごせる場所が必要ではないか。でも、その頃はハンディを持つ子ども達が家から通えるような場所はどこにもありませんでした。初代の園長は町の中で、そういう園ができる場所をあちこち探し、当時この場所にあった相良海浜病院の一角を貸していただけることになりました。こうして三人の子どもと一人の保母（保育士）により、昭和四十四年四月、六畳一間の部屋から、「つくしの家」が始まりました。静岡県で一番最初にできたハンディを持つ子ども達が家から通える施設です。

「つくしの家」の歩みと共に、小さな子ども達が入園し、開園当時から通う人達とで年令の幅も広がったため、昭和五十六年に大人の方のための「つくし作業所」、生活寮として「つくし寮」を開設しました。昭和六十三年度の制度改正により、作業所から日中の生活訓練の場所として「つくしホーム」に移行しました。また、平成十九年度からは、市内の手をつなぐ育成会で運営していた「こづつみ作業所」と「第2こづつみ作業所」が、平成二十一年度からは作業所に通う人達のための寮「こづつみ寮（男子寮）」と「第二こづつみ寮（女子寮）」が傘下に入りました。そして平成二十六年四月からは「牧之原市立あおぞら保育園」を市より指定管理の指定を受け運営が始まりました。

昭和から平成へ…、福祉に対する理解も大きく進むと共に、制度や法律、体制も次々と変わり複雑にもなりました。「福祉サービス」という言葉が使われるようになり、様々な支援やサービスを使いながら地域の中で生活して行くという考え方に変わってきています。新しい形の事業所が次々とできてくるのを目の当たりにしながら、歩み続けて行くことの意味と思い、そして難しさも日々感じています。

この春、つくしの家には十人の新入園児を迎え、一才から十三才の三十二人の子ども達と親子教室の二十人のお友達、つくしホームには十八才から七十一才までの二十五人の方が通っています。二つの園舎から今日もにぎやかな声がひびいています。一人ひとりに必要な場所、そして心が温かく満たされるよう、これから始まる「令和」という時代を歩んでいきたいと思います。

平成三十年度の後援会決算を感謝をもって報告させていただきます。梅雨の時期を迎えます。皆様のご健康とご自愛を心よりお祈り申し上げご報告とさせていただきます。

平成30年度 心身障害児通園施設つくしの家

後援会　決算報告書

収入金額	2,335,226円
支出金額	378,102円
差引金額	1,957,124円

収入の部

科目	金額	説明
1 寄附金収入	2,335,132	263口
2 雑収入	94	預金利子
合計	2,335,226	

支出の部

科目	金額	説明
1 事業費支出	378,102	
(1) 一般物品費	16,221	事務用品代
(2) 印刷製本費	122,688	たより100号、101号
(3) 役務費	236,637	払込料金、たより発送代
(4) 雑費	2,556	残高証明手数料
2 繰入金支出	0	
(1)本部会計繰入金支出	0	
合計	378,102	

取扱金融機関のご案内

三菱ＵＦＪ銀行静岡支店
普通　4254072
口座名　つくしの家後援会
（以下同じ）
静岡銀行相良支店
普通　145949
島田掛川信用金庫相良支店
（旧掛川信用金庫）　普通　17085
島田掛川信用金庫相良支店
（旧島田信用金庫）　普通　134511

郵便振替
00820－5－57983
口座名　心身障害児通園施設
つくしの家後援会

つばさ

◆つくしの家のあゆみ

十一月　◎牧之原市赤十字奉仕団相良分団の皆様が慰問にみえてくださり、タオルや洗剤をいただきました。◎つくしホーム・つくしの家の保護者会の「感謝の集い」が、にぎやかに行われました。

十二月　◎相良保育園でクリスマス会があり、献金を子ども達が届けて下さいました。大切に使わせていただきます。◎今年も市内の洋菓子店「桃林堂」の山下様が、子ども達にケーキのデコレーションをさせて下さいました。◎伊藤園様より工場祭の収益をご寄附いただきました。◎星いきいき社会福祉財団様より、大型のブロックをたくさんプレゼントしていただきました。◎クリスマス会では、クラスごとに練習した劇やお歌を発表しました。今回は、何とサプライズでもう一人サンタさんが登場！結婚式場うおとも様の社長さんでした。みんなびっくり…。とてもあたたかな会になりました。

一月　◎今年もみんなで「お餅つき&とん汁パーティー」をしました。臼と杵でのお餅つきの経験は初めてのお友達もいましたね。お父さん達も大活躍でした。とん汁もおいしかったね。

二月　◎牧之原小学校の交流集会。アルミ缶回収の収益で、つくしのみんなに楽器とお人形をいただきました。代表で参加したお友達が生徒さん達と交流をしてきました。◎「カーブス牧之原相良」様より、チャリティーイベントでたくさんの食料品をいただきました。◎豆まき、こわ～い鬼さんが登場！お菓子もいっぱい拾ったね。お菓子は毎週水曜日の夜にホールで合唱の練習をしているコルサージュさんからいただきました。子ども達は大喜びでした。

三月　◎今年は七名の子ども達がそれぞれの年月をここで過ごして無事に卒園していきました。卒園児の胸のコサージュは吉田町の小塚好子様が、会場のお花は旧職員の通子先生が飾って下さいました。◎今年度も美容師の加藤さん、毎週こぐま教室のボランティアとして旧職員の庄司先生と富田先生、アルミ缶やいろいろプレゼントして下さったり、ここを応援して下さったたくさんの皆様に心より感謝いたします。

四月　◎さわやかな陽ざしを浴びて今年も十人のお友達と職員絹村真央先生を迎え、にぎやかにスタートしました。

絵：ひかる

◆つくしホームから

11月　☆萩間小学校4年生の皆さんとの2回目の交流。今回は「萩間伝説劇場」で行った劇や、元気なソーラン、縄跳びやリコーダー演奏を楽しく見せてもらいました。☆民生委員さんと一緒に、心地よい風の中、散歩を楽しみました。☆牧之原市内施設交流会。今年はグリーンシトラスミュージック様の演奏を聴いたり、パン食い競争やグループ交流でゲームをしたり、楽しい時間を過ごす事が出来ました。☆保護者の皆さんが年4回、愛情いっぱいの食事会を開いてくれました。☆せせらぎグループが小堤山公園に出掛け、歩いたり走ったりしながら楽しい時間を過ごしました。つばめグループは昨年同様、作品を発表し、販売も行いました。☆つくしに約50年通い続けた優しくて穏やかな紅林昌子さんが退園しました。これからも元気でね。

12月　☆今年も市内地頭方の「桃林堂」山下様のクリスマスケーキ作り、優しく手を添えて一緒にデコレーションして下さり、みんな本当に嬉しそうでした。☆株式会社伊藤園様よりご寄付をいただきました。利用者さんの為に大切に使わせていただきます。☆今年もつくしホームを温かく支えて下さった方々に感謝し、カレンダーを届けました。☆つぐしの家・つくしホーム保護者の皆さんが感謝の会を開いてい下さいました。☆ホールの中を飾り付け、保護者の皆さんと楽しいクリスマス会を開きました。

1月　☆つくしの家「にじ組」さんが、今年は可愛い動物になってダンスを披露してくれました。☆今年の抱負を書初めにしたためました。

2月　☆カーブス牧之原相良店様より「フードドライブ事業」で寄せられた食料品をいただきました。

3月　☆萩間小学校の皆さんよりアルミ缶回収の収益と鉢植えをいただきました。☆市内「よこぐらの会」の皆様が今年も色んな種類のおはぎをごちそうして下さいました。☆大石真理子先生と櫻井麻里子先生、矢部則子先生、退職。長い間ありがとうございました。

4月　☆新職員として片瀬恵理先生、原田重乃先生、山田恵美子先生、宮﨑梓先生を迎えました。よろしくお願いします。

5月　☆民生委員さんとの交流が始まります。☆五関めぐ美先生退職。ありがとうございました。

編集後記

昨年の台風２４号による大規模停電では、近隣の地域でトイレや調理・入浴が長期間できない施設がありました。幸いつくしは１日だけの停電で済みましたが、ライフラインの貴重さを知り、水が出て電気が使えることが決して当たり前ではないことを学びました。来るべき時に備え、風水害への対応を怠らないようにしたいと思います。